

ごみ収集におけるDXの推進について

環境事業課

1. 政策等の背景・目的及び効果

本市では、循環型社会の構築に向けて様々なごみの減量・リサイクルの取り組みを進めています。そのような中、今後「プラスチックごみの4Rの推進」や「分別区分の見直し」など、市民の理解や協力を必要とする大きな制度変更を伴う施策については、丁寧な市民周知や指導及び事後啓発が必要となり、多くの時間・人員の確保が必要となります。

そこで、ごみの収集における煩雑な事務作業や多岐にわたる収集管理業務の効率化を図り、今後、様々な施策実施に対応するための人員確保や更なる市民サービスの提供など、安定的かつ効果的なごみ収集業務運営に向けてDX化に取り組むものです。

2. 内容

収集車両に「GPS付タブレット端末」を搭載し、リアルタイムに収集状況を把握・管理する「運行管理システム」を導入することで、収集業務の効率化や情報管理リスクの削減、市民サービスの向上を図ります。また、将来的には、粗大ごみの予約システムとの一括管理の導入に向け、段階的にシステムの構築を行います。

DXの導入による業務改善		
	改善内容	想定される市民サービスの向上
運行管理システムの導入	<ul style="list-style-type: none"> ごみ収集に係る事務作業の効率化及びGPS付タブレットの搭載により、リアルタイムで収集状況等の把握 災害時に緊急的に設置したごみ置き場情報の共有 	<ul style="list-style-type: none"> 収集時間や間違いごみ、未収ごみなどの問い合わせに対し、リアルタイムで状況が確認でき、対応がスムーズにできる。 災害時に緊急的に設置したごみ置き場に対する収集作業がスムーズに行える。
粗大ごみ予約システムの更新	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーレス化による経費削減と個人情報紛失のリスク回避 ごみ処理券（証紙）のオンライン決済化 	<ul style="list-style-type: none"> 収集作業用リスト（紙類）が不要となり、個人情報流出のリスクが回避される。 市役所やコンビニエンスストアにごみ処理券（証紙）を購入に行く手間が省けるとともに、ごみ処理券（証紙）の盗難や紛失の不安が解消される。

3. 実施時期等

《今後の予定》 一括管理システム導入に向けたスケジュール

令和6年(2024年)	8月	建設環境委員協議会へ報告
	9月	運行管理システム実証費に係る補正予算案(債務負担設定)を計上
	11月	運行管理システム契約を締結
令和7年度(2025年度) ～8年度(2026年度)		運行管理システムの実証導入開始 実証導入後の検証(データ移行、機能、不具合の有無など)
令和9年度(2027年度) ～11年度(2029年度)		運行管理システムの本格導入開始
令和12年度(2030年度) ～16年度(2034年度)		運行管理及び粗大ごみの予約受付一括管理システムの導入開始

4. 総合計画等における根拠・位置付け

総合計画

基本目標 自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち

施策目標25 ごみを減らし、資源の循環が進むまち



5. 関係法令・条例等

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

6. 事業費・財源及びコスト

《事業費》 8, 096 千円（一般財源）

支出内訳 実証導入に係る準備経費及び維持管理経費：8, 096 千円

※債務負担行為（令和7年度～令和8年度）